

令和8年度

広野小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学んだことの定着率を高め、それらを活用できるようにするための授業づくりに取り組むとともに、家庭学習や読書の習慣を育てる。

校長

中村 七帆

学力向上推進員

木村 祥子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字を正しく読むことや、基本的な四則計算や数量・図形についての基本事項は身につけてきている。 ●基本事項の習得状況の二極化が見られる。 ●言葉の意味理解や既習内容が正しく使えていない場面があり、計算間違いがあるなどにも、課題が見られる。	・漢字を場面に合わせて正確に書き、計算を確実に解き、自ら見直そうとする。 ・分からない言葉を自発的に調べたり、学習した内容を活用して学校生活や新たな学習に取り組んだりする。	・ミニテスト等を実施し、児童一人一人の理解状況を確認、学習指導に取り組む。 ・日記、作文指導やノート指導を行うとともに、日々の授業での振り返りや既習事項を比べたり関連付けたりする活動を授業に取り入れ、知識・技能の定着を図る。 ・平行読書を取り入れたり、読書の時間を確保したりする。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○音読学習を毎日行い、はっきりした発音で読んだり、授業や集会、掃除の振り返り等で自分の考えを伝えたりすることができるようになってきた。 ●文章や資料を読み取ったり、複数の文章を読み取りそれをもとに考え、判断したりすることに課題がある。 ●自分の考えやその理由を、分かりやすく整理して伝えたり、説明したりすることに課題がある。また、友達の意見を聞いて自分の考えに生かすことが十分ではない。	・文章や資料を自らの力で読み取り、それをもとに自分の考えを深めたり、判断したりしようとする。 ・調べた事実や分かったことに自分の考えを付け加えて文章を書き、進んで友達に伝えようとする。 ・ノートに自分の考えや、授業後の振り返りを書くことができ、進んで伝えることができる。	・学習過程で児童の思考を見取り、話し合いに生かしたり、ノート指導を行ったりする。 ・話し合い活動の工夫（ICT機器やホワイトボードの活用等）を取り入れ、自分の考えを伝えたり、理由を説明したりする場を多く設定する。 ・体験学習や交流学習を積極的に行い、人とのつながりを深め、積極的に考えたり自主的に行動できるようにする。 ・縦割り班での活動を続け、活動後に振り返りや反省の場を設けることで、一人一人が表現できる場を増やす。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○課題や作業に一生懸命取り組むことができ、宿題も忘れずできている。 ○読書の記録や読書賞などの取り組みにより、多くの児童が読書を楽しむことができている。 ●学童で宿題に取り組む習慣ができている反面、家庭で自主的に学習に取り組む習慣が十分とは言えない。 ●課題への取り組みの丁寧さに欠ける。	・意欲的に授業に臨み、進んで自分の考えを発言する。 ・学年に応じた家庭学習（家庭・学童）の時間を確保し、行おうとする。 ・学年に応じた本を選び１週間に60分以上の読書活動を行おうとする。	・学習課題の提示と振り返りを毎時間行い、児童が見通しをもち、主体的に課題解決できるような授業展開を心がける。 ・課題の確認や「学習の手引き」の活動により、家庭学習の重要性と学習時間の確保について、児童や保護者に働きかける。 ・「生活リズムチェック」や宿題、声掛けにより、１日１０分以上の読書および週末の家庭での読書を推進する。			